

第40回環境安全委員会 議事要旨(案)

1. 開催日時 平成30年11月15日(木) 14:59~17:07
2. 開催場所 JESCO 東京 PCB 処理事務所
3. 出席者 中杉委員長、佐古委員、村山委員、森口委員、小安委員、米沢委員、
佐竹委員、河野委員、保科委員、風祭委員、大藤委員
(環境省) 川越企画官、亀井課長補佐、生越調査官 (順不同)
4. 議事(公開)

【議題1】東京PCB処理事業所平成30年度上期の操業状況

資料1に基づき JESCO より説明、質疑応答があった。主な意見は以下の通り。

- 委員長 少し操業で計画どおりいかなかった部分はあるけれども、実績としてはまあまあいっているという感じでしょうか。
- JESCO 台数、重量の見方で多少違いますけれども、概ね上期につきましては、おかげさまで概ね計画どおり進んできているかなというところでございます。
- 委員 図6の廃PCBの処理ですけれども、上のほうの図です。33年度が結構、まだ処理が続く状況ですね。34年が最後と考えると、できるだけ前倒しで、31年あたりがもっとふやせないかと思うのですが、それは難しいのですか。
- JESCO 31~33年の大半はリン含有PCB油の処理ということで、これは今日の議題の最後のほうでまた状況を御報告申し上げるところですが、リンの処理設備につきましては、これから実機を設置いたしまして、今の見込みですと32年1月ごろから実機の処理が開始されて、32年度、33年度を中心に処理を実施するという計画でありますので、このPCB油につきましては年次計画でいきますと、こういった図になるところでございます。
- 委員 表5なのですけれども、二次廃棄物の搬出状況ですが、これはここに出ている搬出先は1カ所だけですね。
- JESCO 群桐エコロさんです。
- 委員 もしも、ここに何かトラブルがあったときにはもう一カ所要るのではないかと思うのですけれども、そのあたりはどうなのですか。やはり複数の搬出先を用意しておかないと1カ所だけでは、そこが何かトラブルったときにそこで搬出がとまるという心配はないのですか。
- JESCO これは毎年入札等でやっておる関係で、なかなか同時に2社というのが事務的にできるか、できないかというのはあるかもしれませんが、現状は今年度、群桐エコロさんのほうに入札の結果、受けていただきまして、処理をしていただいている状況でございます。
- 委員 そこはかなり処理能力が大きな感じでしょうか。
- JESCO そうです。特に今までのところ、私どもの関係で何か処理が滞ったといったことはなかったかと思えます。
- 委員 スラリポンプの件ですけれども、スラリポンプは結構悩ましいポンプで、中の固形物の濃度を上げるとどうしても詰まりやすいということが起こりますし、固形物の濃度が低いと今度は処理量が追いつかないということがあると思うので、そのあたり、今は何%ぐらいの濃

度でスラリは送っておられるのですか。

○JESCO スラリ濃度は約26%ぐらいで、ちょっと変動はありますが、もともと30%ぐらいが固形物で、あとは液という比率だったのですけれども、実際、スラリ化していく中で26%ぐらいが固形物の濃度になっております。

○委員 その25～26%のあたりだと特に問題なく、それはずっと流れているのですか。

○JESCO 問題なく流れております。今回、配管の点検をやりましたら、まず問題になるような固形物がありませんでしたので、パージのことが十分きいているかなと認識しております。

○委員長 今の御説明のところで、リリーフ弁が開くのはどこなのかというのがよくわからないので、リリーフ弁を開いてしまっていて圧が上がらないときは、リリーフ弁が、逃がし弁があいているわけですね。

○JESCO はい。リリーフ弁は、配管等にあるリリーフ弁とか安全弁とかではなくて、機器つきのものであります。ダイヤフラムポンプなのですけれども、作動油のところの圧力が上がると逃がすような機能になっております。

○委員長 基本的には逃がすので、逃がしたものがどこへどう出て、環境にどうなのかという、原発の施設でも逃がすというあれがどう運転するのか、かなり悩ましい話ですね。

○JESCO 作動油からですので、機器の外に油は出ないのですけれども、スリップするような感じのリリーフ弁を持っています。

○委員 図14の作業者の被曝の件ですけれども、この赤い方です。被曝が多くなって、別の部署に動かされたという、そこは多分、作業現場というのは切断とか、そういうことをされているところだったのですか。

○JESCO そうです。解体作業等です。

○委員 その方が別のところへ動いた後、当然、別の方が今度、その作業を担当されていますね。その方のPCB濃度は大丈夫なのですか。

○JESCO はい。特に問題ないといえますか、もともと、この方はこういう高い濃度が出たときに、一緒に同様の作業をやっていたほかの作業員の方もいらっしゃったのですが、ほかの作業員の方については特に高い濃度はなかったもので、この方が、なかなか原因までは特定できなかったのですけれども、何らかの要因がこの方について生じて、こういう高い濃度が測定されたということでございます。

○委員 そういう体質によって違うというものはあるのですか。

○JESCO そこまではよくわかりませんが、特に体質が云々ということでは、直接はないのかなと思うのです。

○委員 関連して、前回もこの点お尋ねしたのですけれども、今回新たに30年度の御報告の中で、やはり排気系統で少し高くなった事例があつて、それについては原因が特定されているということなのですが、この血中濃度が高かった方については、どういう作業によって生じたか、結局わからないままということだったのですけれども、その類似のような作業に従事されていて、排気系統では出なかったけれども、その方はやはり暴露された。そういうことがあつたかどうかすらもわからない状況なのではないでしょうか。作業の種類としてです。

○JESCO 実際、採血は2月にやりまして、その結果が出たのは4月ということで、ちょっとタイムラグといえますか、時間差もあつたこともあつて、なかなか詳細のところまでのフォロー

がなかなか難しいところで、余り具体のところまでの研究ができませんでしたが、その後、この方については配置替えもしながら、また、他の作業員の方につきましても、運転会社さんのほうで保護具の正しい装着の仕方の徹底ですとか、除染ですとか、そういったこともより一層徹底していただきながら、そういった対応も含めながら、また別途、作業改善ワーキンググループというものを運転会社さんと一緒に立ち上げながら、いろんな作業環境改善の検討を進めておりまして、そういった活動を通じながら、作業環境を少しでもよくしようという取り組みをしているところでございます。

○委員長 多分、作業環境をはかったり「高高」の警報も含めて、これは瞬時の値なのです。血中濃度というものはそれを累積した値なので、そういう意味では注視をしていかなければいけないのだろうと思うのです。

もう一つは「高高」の話と作業環境の濃度の高い原因というのは、どちらも時間がかかって、解体に熱がかかっているという話なので、こういういろんなところの事象をちゃんと調べて、それを重ね合わせてどうやるかということを考えていただくことが必要だろう。先ほど佐藤さんのお話で、冷やしながらかというところで冷風をかけてという、冷風とはどのぐらいのあれでかけるのかということによって、冷たいからそんなに飛んでいかないだろうけれども、風が強ければ、余り強くし過ぎると、飛沫等でまた飛散をさせるようなことが可能性として起こり得るだろう。

ちょっとそこら辺のところを踏まえて、そういうふうに時間がかかる作業を少し全面的に整理していただいて、対策を考えていただいたほうがいいのかなど。これは一つ一つの事例として見ないで、全部を合わせてどういうふうに考えるかということで見えていただくことが必要かなと思います。この辺のところを全部見て、こういうところで作業環境が高かった面があるところで従事している人たちの血中濃度がどうなっているかというのを今度は逆に見ていくことも、トータルで見ていくような形で管理をしていただく必要があるかなと思います。よろしくお願いします。

○委員 今の点なのですが、具体的に冷風をかける装置というのはどういうものなのでしょう。作業用のファンみたいなものなのでしょう。

○JESCO 冷却については、圧縮空気を分配するような形で、熱いガスになる側と冷たいガスに分配されまして、その冷たい側で切削しているところを冷やしております。

作業環境が直接、血中PCB濃度が上がるかどうかというところは、なかなか直結したことが言えるかどうか、わからないのですが、もう一つの要素が経口摂取ということで、汚染が伝わってきて口の中に入るといったところがあります。これはマスクが汚れていませんかとか、手洗いがしっかりできていますかとか、作業服に汚染がついていませんかとかというところがあります。そこは運転会社さんでよく、今、細かく見ていただいて、血中PCBが上がっていない方、同じ職場なのだけれども、上がっていない方はどうして上がっていないか。そういったところの違いとかを調べていただいています。

どうも、マスクが少し汚れかけている方は血中PCBが高いかなとか、少しずつ傾向はあると思うのですが、作業服の上にもう一つ、すごく暴露しないのですが、作業服の上にマイクロガードを1枚着て、ちょっと作業をした中で結果がどうかとか、そういうものを少し長期的に見ておりまして、高かった方が下がってきている傾向があらわれておりますので、作業環境の濃度

が直接、血中PCBにというよりも、伝達して体内に入っている可能性のほうもあるのかなど。そうすると、個人差が出るのかなと感じております。

○委員長 全然状況は違うのですけれども、ごみの不法投棄でPCBを含んだ廃棄物。これは高濃度ではなくて、幸いにして低濃度なのですが、その不法投棄された廃棄物を処理するのを廃棄物処理業者をお願いしてやったのですけれども、これは県の仕事だったので、いいかげんなことはできないということで、作業環境をしっかりとってやったのです。そのときもやはり作業環境といいますか、局所的にはかってみると高い。

どう抑えるかということでもいろいろ工夫したのですが、切断面に泡をかけて飛散を防ぐということをやって、それがうまくいって高くないということも、そういう工夫もした例があります。それも一つの案だと思います。上がっても泡が飛んでしまうものであるのですけれども、ちょっと飛散したものはそこでとどめてしまう。ただ、その泡がどう流れるかという話も含めて考えなければいけないのですけれども、そういう工夫でやった例もあります。もし、具体的にどこでという話はお知らせすることはできるだろうと思いますが、いろんな工夫をしていただければと思います。

【議題2】長期保全計画に基づく平成30年度上期設備保全の実施状況

資料2に基づき JESCO より説明。質疑応答は特になし。

○委員長 一応、計画外にやらなければいけないことはなかった。今回は途中で事故という報告が、先ほど何件かありましたけれども、重要なものはなかったということで、点検といいますか、設備保全の面で、計画になかったものをやらなければいけないことは、今のところ、今年度は、上期はなかったということでございました。

【議題3】平成30年度東京PCB処理事業所長期処理計画

資料3に基づき JESCO より説明、質疑応答があった。主な意見は以下の通り。

○委員長 昨年度までと違って、かなり詳しく説明いただいたので、理解が進んだかと思いません。1つだけ確認ですけれども、例えば5ページのところで、JESCO登録量というのは、処理したものもこれから処理するものも含めた全体の数ということですね。

○JESCO はい。含めています。

○委員長 ですから、全体の数がこれまで処理したもの、処理しないものも含めて。

○JESCO はい。そうです。全て入っています。

○委員長 5ページのところは、そういったものがどのぐらい動いているかという話ですね。

○JESCO はい。そうです。

○委員 念のための確認なのですが、北九州事業所にコンデンサーの処理を委託される部分があると思います。本来は北九州事業所は29年度末までということで、それは東京からの分も予定されていたけれども、トラブルで延びたので、この年度にずれ込んでいて、それについては北九州事業所なり、そちらのほうで十分御理解いただいているという理解でよろしいでしょうか。

○JESCO はい。そうです。保管者様の都合もありまして、御理解いただいて、ことしに最後運ぶ形になりますけれども、今年度、処理完了をする予定になっております。

○委員長 1つだけ確認なのですけれども、北九州事業所でやっただけでいいのはコンデenserで、これはある特殊なものという話ではないというふうに理解していいですか。

逆に言えば、これから掘り起こしで出てくるようなものがあり得るので、それは北九州は動いていませんから、東京事業所でやらなければいけない話になるので、そこら辺は十分考えていただく必要があるといたしますか、これは東京事業では技術的にできないから北九州でやっただけでいいという話があると困るのですね。

○JESCO それは大丈夫です。処理手間物ということで、手間はかかるのですけれども、処理できますというものがあつて、そういうものをちょっと中心的に北九州のほうにお願いした経緯があります。

○委員長 だから、そこら辺をちょっと考えておく必要があるだろうと思っておりますので、今、予定しているものは、わかっているものは全部お願いして、向こうで引き受けていただいて、向こうが完了までに計画してやっただけでいいのですけれども、これから掘り起こしの中で出てくるものが、そういうものが出てくると、北九州にお願いできない。向こうは閉じてしまいますから。

そういう意味では、今回詳しくあれしていただいたのですが、多分、全体の量を見ていくと非常に、先ほどの資料-1のほうを見ても、かなり余裕がある。それで、少し前倒ししていきますという所長のお話でしたが、そのとおりでろうと思っておりますが、北九州で今、最後の段階に入っていて、この前も環境省の委員会で御報告がありましたけれども、なかなか掘り起こしというものがかなりずれ込んでしまっているようなことが起こっているように理解をしているのですが、そこら辺の北九州の経験を十分踏まえた上で最後の、能力的には十分あるのだけれども、出てくる手続的にといたしますか、処理的に間に合わなくなるようなことが起こり得る。その最後の最後、どういうふうにやっていくのかという計画をしっかりとつくっていただく必要があるのだろうと思っております。

幸いにして、東京事業所は一番最後までやりますから、東京事業所はあれですけれども、先ほどの九州に持っていけなかったらどうするのかという話も含めて、そこら辺についても少し計画を考えておいていただく必要があるのかなど。意外と全体を見れば十分大丈夫という話なのですが、設備があつても、そこにかけるか、かけられないかというのは、掘り起こしを自治体のほうでしっかりとやっていただくことが必要なわけです。

それを踏まえた上で、例えば先ほどの話でいくと、埼玉県は若干、登録率が低いとか、最後は埼玉県のほうで少し頑張っておいていただく必要があるのだろうと思っておりますが、これはJESCOといえますか、国もしっかりやっただけでいいかなければいけない部分ですけれども、そこら辺のところを踏まえながら、JESCOのほうで最後のほう、そういうふうに、数は具体的には、能力的にはどうということはないかと思っておりますけれども、どういうふうな段取りでやっていくか。北九州が最初に終わりになるので、それを参考にさせていただきながら、しっかりとつくっておいていただければと思います。

この前、環境省の委員会で話を伺っていて、これはかなり容易ではない。そこら辺のところをしっかりとやらないといけないと思っておりましたので、ぜひよろしくお願ひいたします。

○委員 今の未登録の話なのですけれども、JESCOについての未登録について、特にコンデンサーは減ったとはいえ、まだ3,000台ぐらいあるということですね。

それで、表8の処理計画のところ、未登録分については大型に含まれているというお話だったと思うのですが、ここに出てきている年度別の計画というものは、あくまでJESCOのほうで御検討されている計画であると。

○JESCO そうです。これはJESCOのほうで見込みとして。

○委員 相手方と調整した上でこうなっているわけではないのですね。

○JESCO やはり大きい変圧器とか、かなり対象が絞られたものはお客さんのほうとの具体的な計画になるのですが、まだコンデンサーの場合は数が多くて、個々のところについては全体感で調整させていただいております。

○委員 ただ、未登録であっても、もう場所とかはわかっているわけですね。

○JESCO はい。登録されているものもそうですし、未登録のものも、情報はありますので、どの事業者さんとかというのはわかっております。

○委員 もう少し積極的に働きかけるといのは難しいのでしょうか。今のお話にもあるように、どんどん遅れてしまうと計画どおりに終わらなくなってしまうという懸念もあるわけです。

○JESCO それは掘り起こしの中で、今、北九州で経験しておりますが、本社の営業部を中心にいろいろ経験の中で精度あるものをどんどん行っております。

○委員長 今、この範囲の中で見えているものはそれでいいのですけれども、見えていない部分があるので、それに対してどう手当てをしていくかということ、なかなか難しいのですけれども、考えておかなければいけないだろう。

もう期限が来たら閉鎖しますということになりますので、なかなか最後の最後が難しいと私も認識をしていますので、JESCOのほうは当然認識しておられるのだと思います。

○委員 その関係なのですけれども、図2がコンデンサーの処理対象物の量がありますね。それの上の一番右のほうですか。それはコンデンサーですか。

○JESCO これはコンデンサーのほうです。

○委員 毎年増えているというのは、処理しているのだけれども、処理すべき量が増えているということは。

○JESCO この中に処理したものと未処理のものがあるのですけれども、とにかくJESCOに登録されているものがこの棒グラフになっております。それと、未登録です。合算した対象物というものが、この報告している時期によってだんだんと上がっているような、増えていますという状況です。

○委員 ということは、処理しているのだけれども、それ以上に未登録とか登録という形で処理すべきものが増えている。そういう状況ですか。

○JESCO そうです。登録については去年1年間で4,000台増えておりますので、処理は6,000台ですので、それより下なのです。

○委員 この時期になって増えるということは、先ほど言われたように、まだまだ掘り起こしなどが結構出てくるのではないかという心配をするのですけれども、その見通しはどのようなのですか。

○JESCO まず、28年度の法改正の中で、届け出とかの処分期間を1年前にとか、そういったと

ころの中の後に出てきた届け出が今回のものを反映しておりますので、まず過去のものについては、精度がかなり上がったのではないかと。

今後については、また1年後を見ないとわからないのですけれども、あとは未登録のものとか、掘り起こしとか、その辺の取り組みの中で数字を拾っていくこととなります。

○委員 未登録としてわかっていけばいいのですけれども、わかっていないものが一番怖いですね。だから、それが後から出てきたら処理できなくなってしまうわけでしょうから、そこをいかに早く35年度までにちゃんと表に出して処理するかということですね。

わかりました。

もう一つは、表9でしたか。廃粉末活性炭の処理が11%という状況ですね。それはかなり技術的に難しいことはあるのですか。

○JESCO これはスラリが、設備が少しふぐあいとまったのが1年ぐらいありまして、そういった影響でまだ少し進捗ができていませんが、昨年度は1年間、処理の経験を積んでおります。その前が、昨年の方がとまっています、今、年間通じた処理が、去年がやっとできています。ことしはそれを、処理量アップで今、取り組んでいる状況になります。

○委員 では、今は特に問題なく。

○JESCO はい。問題なくっております。

○委員 表3なのですが、先ほど聞いていた中で、登録したのですけれども、届け出を取り下げているというのは、勝手に自分のところの判断で取り下げているのですか。

○JESCO 届け出につきましては、例えば濃度をはかって低濃度であるという確認のもと、届け出ましようみたいな形の手続になるかと思いますが、何か補足はありますか。

○JESCO 済みません。

当然、届け出されていても、特にトランスなどは分析をかけると低濃度でしたということで、届け出は低濃度になれば、高濃度から低濃度になるだけなので、届け出自体はあるのですけれども、JESCOへの対象物ではなくなるということです。

あとは、これはたまに実際はあるのですが、持っていたのだけれども、盗難に遭いましたかということ、盗難の届け出をされて、実際に届け出を取り下げ、さらには当然、登録も取り下げるといった事例がございます。

それは、判断のほうは自治体様がやっておられますので、きちんとエビデンスをいただいて登録を取り下げるといった形はやらせております。勝手にやるということは当然ないです。

○委員 そもそも論なのですけれども、今、登録についてはさまざま、営業とかで取り組みをすると思うのですが、掘り起こしについてはどこが最終的に責任を持って行うのでしょうか。そのところが、今、掘り起こしのことでさまざま話が進んでいるような気がするのですが、責任というものはやはりどこかで持たなくてはいけないと思うのですが、それはどこなのでしょう。そのところを教えてくださいと思います。

○委員長 それは環境省のほうでお話ししてもらえますか。

○委員 東京都のほうでは掘り起こし調査というものを、この変圧器、コンデンサーに関しては平成27年度から行っているところなのですが、あと、東京事業所さんには直接とは関係ないかもしれませんが、安定器に関してはこれからということ、これは国のほうでつくっていただいている掘り起こしマニュアルがありますので、それに基づいてやっているところでござ

います。

○委員 ということは、都は都で責任を持っているけれども、国のほうの責任もあるということで理解してもよろしいのですか。

○環境省 御指摘のとおりでございます。国のほうでしっかり自治体の皆さんに技術的な助言もさせていただきながら、自治体さんにおいて進めていただいているところです。当然、それをやっていく中では国も、それから、JESCOも経済産業省も一体となって、しっかり期限までに間に合うように、あらかじめ早い時期に掘り起こしを完了させるべく進めているところでございます。

○委員長 実際に北九州事業所は今年度で終わりですので、その経験が多分、十分生かすような形で進めていただくことが必要だろうと思えますし、そうなるだろう。これは国のほうにもぜひそうしてくださいというふうに環境省の委員会で申し上げます。

【議題4】 リン含有PCB油前処理設備の設置に伴う外部洗浄室等の設備解体完了報告
資料4に基づき JESCO より説明。

○委員長 リン含有PCBを前処理する設備をつくるために、解体したものを低濃度での処理廃棄物ということで、そのやり方にのっとなって処理を行ったという、解体をしたということで、報告でした。

質疑応答は特になし。

【議題5】 リン含有PCB油前処理実証設備による実証試験結果と実機設備設置の進捗状況
資料5に基づき JESCO より説明、質疑応答があった。主な意見は以下の通り。

○委員長 4ページの表4で、やはり4倍のときの4,100というのは気になりますね。

これは1回だけです。

○JESCO そうです。

○委員長 だから、ばらつきがどのくらいあるかというのを見ていかないと、これを超えてしまうと高濃度になってしまいますね。そうすると、全面的に見直しの話になるので、繰り返しやって、変動がどのくらいあるか、少し確かめて、早急に確かめていただく必要がある。

これはラボの試験ですね。ラボの試験だから、何回でもできるというのはちょっとあれですけども、そこら辺は確認しておかないと、このままでやって、作ったけれどもという話になるとつらいものがありますから。

○JESCO その辺につきましても、試運転調整の中で再度確認しながらやっていきたいと思っております。

また、5%程度のNG率を見込んでおりますので、それを含めて、33年度末には終了する計画としております。

○委員長 でも、これが毎回超えるようなものになると、この方法自体がちょっと、毎回超えなくても、その超える比率が高くなると大変ですね。別途なことを考えなければいけないので、そういう意味ではラボで変動がどのくらいあるかというものを確認していただく必要があるだ

ろうと思います。

これはこのままだと少し、余り変動がない、4,100でも、4,200とか4,300ぐらいの間で動いてくれているのなら、何回かやって、5,000を超えなければいいけれども、何回かに1回超えてしまうと、それだけその分はどうするのだという話に、この密閉型コンテナに集めたものをどういうふうにするかという話になってきますから。

○JESCO その辺も今後、試運転調整等で慎重に対処していきたいと思っております。

○委員 図1ですか。タンクの中の状況がありますね。2段目の一番左ですか。それは、L層とM層の境ははっきりわかるのですか。

○JESCO 実はまだはっきりはわかっていないといいますか、サンプリングノズルがちょうど、この位置にありまして、それでサンプリングして調査した結果ということでございます。

○委員 いわゆる深さだけで見ているのであれば、ひょっとしたらL層がもっと多いケースがあったりしたときには、H、Mと思っているところにLが入っていて、またそちらのほうを処理しなければいけないということが起こったりしますね。そのあたりをきちんと分けて処理できるかどうかというのは結構、処理するときの効率にきくと思うのですよ。そのあたりはどのようなのですか。

○JESCO 今、その辺は保管事業者のほうで払い出し設備をつくってしまして、その段階でいろいろ検討していただいています。

それから、ノズルの位置を可変にするとか、いろんな手法を検討していると聞いておりますが、こちらのほうとしても保管事業者と協力して、これを迅速に進めるように対応をとってきたいと思っております。

○委員 多分、Lから取り出していった場合に、最初は例えば色が濃くて出ていって、そしてLが終わったときに、今度はMに行ったときには色が変わるとか、そういうふうに明らかに層が分かれていればきちんと処理できると思うのですけれども、それが曖昧だとなかなか難しい。特に中が揺らぐときに、お互いがまじり合うような状態になってしまうということが起こったときには非常に面倒くさくなってくると思うので、そんな処理法はちゃんと確実にしておいてもらえると。

○JESCO 一応、保管事業者のほうから払い出しをするときにリンの濃度をはかってくれることになってしまして、受け入れ側では、事業所では密度をはかって、それがリン濃度の相関性があるということなので、今後の対応についてはそごがないように進めたいと思っております。

○委員 密度差0.1というのはあってないような差なので、そこはよほど気をつけていかないとと思いますよ。

もう一つ、その後、25%の苛性ソーダを入れて処理されますね。その温度は何度で処理されるのですか。

○JESCO 通常、常温といいますか。

○委員 常温でいいのですか。

○JESCO はい。既設の設備から実験では全て入れていきますので。

○委員 その後、それで処理して、リンが懸濁物という感じで濃縮されているわけですね。その懸濁物はその後、どう処理されるのですか。

○JESCO 最終的には界面の形で、こちらはある時点で排出しまして、またもとに戻すとか、そ

の辺の処理について、今、進めているところでございます。

○委員 その懸濁物というのは、どうしても表面積が大きいので、そこでPCBが付着している可能性はありますね。そのあたりのPCBに対する基準は満たしているという、その辺は確認がとれたのですか。

○JESCO 一応、ラボ試験等で絶縁油で洗うことによって下がるのが一応確認できておりますが、今後とも実機の実際の試運転の中で確認していきたいと思っております。

○委員 そこはきちんと確認しないと、そこがまた汚染したまま出てきたら大変でしょうから、それはお願いしたいのですよ。そのあたりですか。

○委員長 多分、Lとの抜き方が、上から抜くのか、下から抜くのか。多分、上から抜いていかないと、下から抜いていくと、上からおりてきたものが汚れてくるから、そこら辺は考えておられるだろうと思えますけれども、ちょっと抜くのは、余り速いスピードでやると攪拌してしまって、汚れが均一になってしまうという話にもなりかねない。

そこら辺はもちろん、十分検討しておられると思いますが、こちらはちゃんと確認して、このぐらいだというものを受けるのですけれども、実際に今、想定している能力でいくと、このはずだった。この何割がLだと。でも、L層等は、さっきの先生の話ではないけれども、もっと多い。この装置では足りないという話になるのが一番つらいですね。そこら辺も十分確認をしていただければと。